

徳富蘆花 とくみ りか 小説家。明治元年十月二十五日肥後國生乳、昭和二年九月十八日歿（二六六―一九七）。本名徳富健次郎。筆名がらがねの友、

健、健一、健二郎、健次郎、豊香生、徳富乾、徳富健一、敬亭生、春

真秋冬居生、楓葉、畫湖仙史、白水居生、白水生、秋山生、秋水生、

蘆花叢中の一閑人、蘆花生、蘆花逸生、鷺倒生、鷺瀟生、高眼低宇生、

A、B、A B子、A B C等。徳富蘇峰の弟。同志社中退。明治十八年

受洗、二十二年民友社入社、二十九年トラス下イを訪問、月刊誌『黒

潮』創刊。『蘆花全集』全二十卷（蘆花全集刊行會編、昭和二年七月

五日―五年六月五日福永書店刊。

譯著書『知識』、武智千博』（本名、纂譯、明治二十二年九月六日民友

社）、『ゴジラツドストン傳』（同、同、明治二十五年十一月九日民友

社）、『第二國民小説』（敬亭生名、合著、明治二十六年六月一日民

友社）、『近世歐米陸史之片影』（本名、纂譯、明治二十六年七月九日民

友社）、『第二國民小説』（A B子名、合著、明治二十九年一月二十

三日民友社）、『世界古今名婦鑑』（蘆花生名、編、明治三十一年四月十

九日民友社）、Allen Spward作『外交奇譚』（同、譯演、明治二十一年

十月十日二日民友社）、『自然と人生』（本名、明治二十二年八月十

八日民友社。再刊。昭和八年五月二十五日岩波書店『岩波文庫』、十

二年四月二十日『岩波文庫教科書版』）、『青蘆集』（蘆花生名、明

治二十五年八月二十一日民友社。再刊。昭和七年四月十日岩波書店）、

『豐潮・第一篇』（本名、明治二十六年一月二十七日豐潮社）、徳富

久子著『濱久米』（同、徳富猪一郎共編、明治四十一年四月十一日渡

邊爲藏刊）、『柳不如歸』（涼著、柳川春葉脚色、明治四十一年一月

- 一、古今古堂書店）、『寄生木』(本名、明治四十一年十一月八日警醒社書店。再刊、全三冊、一、昭和二十一年二月五日、二、八月六日、三、二十一年二月二十五日岩波書店「岩波文庫」)、<sup>漢</sup>『譯不如歸』(原著、杉原英山漢譯、<sup>言大懇辭</sup>山田貞村註點、明治四十四年四月二十五日千代田書房、附杉本深江堂)、『みみずのたけこと』(本名、大正二年二月十日新橋會書店)。  
 二、<sup>新橋會書店</sup>『新橋會書店』。再刊、昭和八年五月五日岩波書店、全二冊、上、十三年四月十五日、下、六月一日「岩波文庫」)、『黒川殿と茶色の白』(同、大正三年十一月十日「三台新橋堂。再刊、昭和十四年二月十五日岩波書店「岩波文庫」)、<sup>註釋</sup>『合冊英譯不如歸(Nami-ko)』(鹽谷繁英譯、大正七年九月十三日誠文堂書店)、『新春』(本名、大正七年四月十日福永書店。再刊、昭和十五年一月十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
 『竹崎順子』(同、大正十二年四月二十一日福永書店)、『太平洋の中心』(同、編、大正十二年九月一日文芸生活研究會)、『富士(第一卷)』(同、徳富重敏共著、大正十五年二月十一日福永書店)、  
 『徳富重敏花傑作選集』(平山敬止編、昭和五年二月十日進文館本店)、  
 『蘆花文集』(大編)『新編、昭和八年六月五日泰平堂。再刊、十二年十月十日東洋出版協會)、  
 『蘆花家信』(昭和七年四月十日岩波書店)、  
 『青山谷雲』(本名、昭和七年五月二十五日岩波書店)、  
 『書翰十年』(同、昭和七年十二月二十日岩波書店)、  
 『日記』(大正二年五月一日)、『(同、昭和十一年五月五日岩波書店)、  
 『譯不如歸』(同、昭和十一年九月八日岩波書店、再刊、十三年七月一日「岩波文庫」)、  
 『ミミズのたけ』(同、新裝版、昭和十二年十一月五日警醒社)、  
 『思出の記』(全一冊)同、上、昭和十二年七月一日、下、十

四年二月二百岩波書店「岩波文庫」、『タイオンナ 譯自然と人生』(小野)

・タイロツ下 譯、昭和二十二年十一月、千五百弘文社)、トモ 譯、(木野)

名、昭和二十七年七月五百岩波書店「岩波文庫」、『トモ 譯、(木野)

山本健吉編、『昭和二十九年四月、千五百新潮社「日本文學全集」』

『謀叛論他』八篇・日記』(木名、中野好夫編、昭和五十二年七月十六

日岩波書店「岩波文庫」)等。

文獻、田邊喜靖『トモ 譯、(木野) 如歸詳釋 (NAMIKO, FULLY EXPLAINED)』(明

治二十九年一月二十四日天星堂書店)、梅花山人著『トモ 譯、(木野) 如歸の歌』

(明治四十一年六月五日文聲社)、夢蝶子著『トモ 譯、(木野) 如歸の歌』(内

題「やどごしの歌」明治四十三年五月、千五百春江堂)、須磨虎男著

『トモ 譯、(木野) 如歸の家』(明治四十四年七月、千五百東京堂書店)、湘南生(永代

静雄)著『トモ 譯、(木野) 如歸の物語』(大正二十一年一月、千五百紅蓮堂書店)、

永代湘南著『トモ 譯、(木野) 如歸』(大正四年四月十五日明治出版協會)、梅

原静雄編『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十一年七月、千五百二

越)、秋田 雨登 著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十二年八月

五百蘆花會)、鐘田研一著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和二十五年九月、千五百第

書房)、前田河廣一著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和二十二年四月、千五百岩波書店)、

田澤信夫編『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十五年二月、千五百愛媛・田澤民俗文

化研究所)、齋藤忠花著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十八年七月、千五百京都

・兎文社)、前田河廣一著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十八年十一月、千

五百蘆花會)、鐘田研一著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和十九年五月、千五百潮文

閣)、前田河廣一著『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和二十二年十一月、千五百興風

館)、岡口道はれら編『トモ 譯、(木野) 如歸』(昭和二十二年八月、千五百

月隱書房)、今田哲夫著「徳富蘆花」(成城國文學會編、昭和二十五年七月二十日市谷出版部「文學叢書本」)、磯子谷繁江編「蘆花忌集」(二句集)(昭和二十五年七月二十日千葉・半(面會)、同「蘆花忌集」(二句集)(昭和二十七年七月二十日千葉・半(面會)、小島信夫著「私の作家評伝・II―四迷・泡鳴・虚子・花袋・蘆花・啄木」(昭和四十七年七月二十日新潮社「新潮選書」)等。